

1. 教育目標

Gunnによると、災害とは「人と環境との生態学的関係における広域な破壊の結果、被災社会がそれと対応するのに非常な努力を要し、被災地域以外からの援助を必要とするほどの規模で生じた深刻かつ急激な出来事」と定義される。その中に一様に適用できる原理原則を導き出すのが科学的態度とするなら、災害には自然災害、人為災害、特殊災害といったさまざまな形態や相（急性期、亜急性期、慢性期、復旧復興期、静穏期、準備期など）が存在し、実に多種多様である。また個人を対象にした日常的な臨床医学とは異なり、実践の機会が限られているのも特徴である。そのため、検証と計画・訓練・体制構築といったアプローチを、常に継続していけることを目標とする。

2. 到達目標

- (1) 災害疫学の各手法を理解し、さまざまな実災害の事後評価に適切に応用することが出来る。
- (2) 被災地域での医療対応を、災害の種類・相に関わらず立案できる。
- (3) 病院の災害対策を立案し、各種の訓練を主導することが出来る。
- (4) 救済者の感じるストレスへの対応、被災者や犠牲者遺族へのグリーフケアといった精神医学的アプローチを考案することが出来る。

3. 成績評価の方法と基準

成績の評価は、本学で定められた「成績の評価基準」に基づき、到達目標に対する達成度及び取得すべき基礎知識・技能の修得度により行う。

期末に行う口頭試問により、救急・集中治療医学全般にわたる知識を評価する。（30%）

学位論文の作成過程で発表会を開催し、進捗状況を評価する。（40%）

研究ノートを定期的に確認し研究の進行状況を判定する。（30%）

4. 教科書・参考書

特に定めない。

必要に応じて、各自自分で考え資料を収集し、学習させる。

なお、疑問があれば常時質問に応じ、適切な助言を与える。

5. 準備学習

阪神淡路大震災、JR 福知山線脱線事故、東日本巨大地震における兵庫医大の活動に関する資料を渡すので、事前学習しておくこと。（1時間以上）

6. フィードバック方法

当該年度終了時に提出する「研究計画書」、又は「研究進捗・指導状況報告書」によりフィードバックを実施する。

(第1学年・昼間開講)

【災害医学】

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
講義	心拍停止と蘇生後の病態生理	小濱臨床准教授	月/2限	通年	4	研究室
演習	救急重症病態の統計学的解析法実習	平田主任教授	火/3限	通年	4	研究室
実験 (臨床) 実習	重症患者の重症度評価と予後予測法	竹田准教授	木/3・4限	通年	4	カンファレンス室
実験 (臨床) 実習	敗血症モデルにおける 免疫担当細胞の細胞死解析の実習	平田主任教授	金/3・4限	通年	4	研究室 手術センター

(第1学年・夜間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
講義	心拍停止と蘇生後の病態生理	平田主任教授	月/6限	半年	2	研究室
講義	脳低温療法の病態生理	小濱臨床准教授	月/7限	半年	2	研究室
実験 (臨床) 実習	敗血症患者における代謝エンタングの 実習免疫担当細胞の細胞死解析の実習	山田准教授	火/6・7限	半年	2	研究室 手術センター
実験 (臨床) 実習	重症患者の重症度評価と予後予測法	山田准教授	木/6・7限	通年	4	研究室 手術センター
演習	救急重症病態の統計学的解析法実習	竹田准教授	金/7限	通年	4	研究室

(第2学年・昼間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
講義	災害対応システムと特殊災害	平田主任教授	月/2限	半年	2	カンファレンス室
実験 (臨床) 実習	中長期災害対応計画と指導計画法	平田主任教授	月/3・4限	通年	4	研究室 手術センター
実験 (臨床) 実習	被災者等からの 聞き取り調査・解析法	小濱臨床准教授	火/3・4限	通年	4	カンファレンス室
演習	トリアージ訓練の立案・指導・評価	平田主任教授	木/3限	半年	2	研究室

(第2学年・夜間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
実験 (臨床) 実習	現地アンケート調査と解析	平田主任教授	火/6・7限	通年	4	カンファレンス室
実験 (臨床) 実習	急性期災害対応計画の立案	平田主任教授	水/6・7限	通年	2	研究室 手術センター
講義	災害対応システムと特殊災害	小濱臨床准教授	木/6限	半年	2	カンファレンス室
実験 (臨床) 実習	中長期災害対応指導計画の 立案と実施	平田主任教授	木/6・7限	通年	4	研究室
演習	内外の文献抄録とEBM評価	平田主任教授	金/6限	半年	2	研究室